

1. 評価結果概要表

作成日 2008年7月11日

【評価実施概要】

事業所番号	4270105325
法人名	有限会社 メディカル葉山
事業所名	よなわグループホーム
所在地 (電話番号)	長崎市岩屋町25-7 メディカル葉山ビル4F (電話) 095-856-2195

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年4月21日	評価確定日	平成20年8月22日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	13 人	常勤 7人, 非常勤 6人, 常勤換算	5.1人/5.6人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築/改築
建物構造	鉄筋 造り	
	6 階建ての	4 階 ~ 4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000/57,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(30,000 円)	30ヶ月で償却		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	14 名	男性	1 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.8 歳	最低	76 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	よなわ医院、近藤整形外科、かずもり皮膚科、田代歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表を務めるよなわ医院の院長が、医療と福祉の充実を目指し、6階建てビルの4階に、平成13年「よなわグループホーム」を開設した。1階は母体であるよなわ医院、2階は入院のための病棟、5階にデイサービス、6階に居宅支援事業所があることで、退院後の在宅生活の支援やご利用者の医療連携体制が整った複合施設となっている。立地の関係から、気軽に外出することが難しい中で、薬局に行くときに回り道をしながら散歩したり、2ユニットあるホームの長い廊下を利用しての歩行訓練など、厳しい立地条件の中でも、少しでもご利用者の身体機能の低下を防ぐような、職員のあきらめない取り組みが行われている。院長と所長の温かな人柄に加え、管理者をはじめ、明るい職員の支援の中で、ご利用者が安心して過ごして頂けることで、ご家族の安心にもつながっている。運営推進会議やご家族からの運営に関する意見や要望には、随時迅速な対応が行われ、現状に満足せず、さらにホームを良くしていくという、積極的な姿勢が感じられるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価結果に基づいて、「改善計画書」を作成し、ご利用者に役割を持って頂き、力を発揮できる場面を作ったり、栄養バランス・摂取カロリーの確認や入居の方の状態に応じた勤務ローテーションを検討し、早出勤務の検討などを行った。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、事前に職員に評価票を渡し、後日ミーティングを開き、話し合った結果を所長が1つにまとめた。自己評価の結果、職員から、「ご利用者ともっと関わる時間を持ちたい」という感想が聞かれた。今後、職員ミーティングの中で、外部評価・自己評価票を活用して、更に質の向上に取り組んでいきたいと所長は考えている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ご利用者・ご家族・民生委員・地域包括支援センターの職員・市の職員参加で行われ、ご利用者の状況報告や活動報告、外部評価の結果報告・重度化した場合の対応等について話し合いが行われた。出席者から、「ホーム内に意見箱を設置してはどうか」という貴重なご意見を頂き、「声のポスト」の設置が行われた。また、「ホーム内に音楽を流してはどうか」とのご意見を頂き、現在検討が行われている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年3回発行の「よなわだより」に、行事のときのご利用者の様子や誕生日を迎えられた方の写真、今後の行事の予定、新任職員の紹介等を掲載して、ご家族に配布している。ご家族が面会にお見えになったときに、個別に健康状態等をお伝えしたり、代表である院長より、検査結果の報告がされている。ご家族に安心して頂ける様、こまめに報告するよう掛けられている。ご家族や運営推進会議出席者から頂いた意見や助言は記録に残し、対応策を含めて職員と話し合い運営に活かしている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 中学校の体験実習の依頼を受け、生徒を受け入れしている。エレベーター内などに、認知症について、困りごとへの相談受付の案内を掲示したり、入居を検討中のご家族の相談・見学の受け入れなど行っている。しかし、地域活動への参加はこれからの予定で、運営推進会議に参加して頂いている民生委員等から話を伺い、地域の活動内容の把握に取りかかったところである。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成13年開設時に、“誰が見てもわかる文言にしよう”と職員で話し合い「家庭的な雰囲気の中で、安心した生活の実現をめざす」という理念を作りあげた。地域密着型サービスとして、住み慣れた地域で安心した生活を支援するという意味が込められた理念となっている。	○	理念の中に明文化されてはいないが、“住み慣れた地域で安心した生活を支援する”という思いが込められている。この思いを文章の中に表現していかれることで、ホームの理念が更にわかりやすくなると思われる。職員全員で検討してみたいか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時に職員全員で理念を唱和している。理念に則り“いかに寄り添ってケアをしているか、家庭的な雰囲気は保っているか、ご利用者主体のケアができていくか”を中心に会議で話し合い、反省点はないか、自らの行動を振り返るようにしている。忙しい時間帯に、ご利用者の話をゆっくり聞いてあげられていないことなど反省に繋がっており、理念通りに実践出来ていないと職員は感じている。	○	理念の実践に向け、職員自ら、自分たちの行動を振り返り、その結果、出来ていないことを反省し、ご利用者と家庭的な雰囲気の中で、ゆっくり対応していくために、記録に時間がかかり過ぎていることから、記録のあり方や記録の書き方の見直しなど検討が行われている。今後の更なる取り組みに期待していきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中学校の体験実習の依頼を受け、生徒を受け入れしている。エレベーター内などに、認知症について、困りごとへの相談受付の案内を掲示したり、入居を検討中のご家族の相談・見学の受け入れなど行っている。しかし、地域活動への参加はこれからの予定で、運営推進会議に参加して頂いている民生委員等から話を伺い、地域の活動内容の把握に取りかかったところである。	○	隣町では、お祭りなど盛んに行われているが、地域的な事も関係して、町を上げての行事が少ない現状にある。母体である医院は自治会に参加しているが、ホームとして自治会へ参加し、地域の方々との交流を図っていきたく所長は考えている。近くの保育園との交流や、公民館活動への参加を通して、地域の方々との交流が促進されることを期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者は、評価の意義を理解し、前回の外部評価結果に基づいて、「改善計画書」を作成し、ご利用者に役割を持っていただき、力を発揮できる場面を作ったり、栄養バランス・摂取カロリーの確認や早出勤務の検討などを行った。今回の自己評価は、事前に職員に評価票を渡し、後日ミーティングを開き、話し合った結果を所長が1つにまとめた。自己評価の結果、職員から、「ご利用者ともっと関わる時間をもちたい」という感想が聞かれた。	○	今後、職員ミーティングの中で、外部評価・自己評価票を活用して、更に質の向上に取り組んでいきたいと所長は考えている。自己評価することで、新たな課題を見つけていける場になると思われ、今後の継続した取り組みに期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者・ご家族・民生委員・地域包括支援センターの職員・市の職員参加で行われ、ご利用者の状況報告や活動報告、外部評価の結果報告・重度化した場合の対応等について話し合いが行われた。出席者からの意見で、「ホーム内に意見箱を設置してはどうか」という貴重なご意見を頂き、「声のポスト」の設置が行われた。また、「ホーム内に音楽を流してはどうか」とのご意見を頂き、現在検討が行われている。業務の都合上、2ヶ月毎の会議開催には至っておらず、出席されたご利用者からの意見も少ない。	○	年3回から4回の開催となっているため、今後回数を増やしていきたいと所長は考えている。ご利用者も出席されているが、意見を頂くまでには至らなかった。実際にサービスを利用されているご利用者に意見を言って頂くことで、より現状を理解して頂け、課題への解決方法の検討においても、現場に即した話し合いが更に出来ていくと思われる。ご利用者から、事前に意見を聞いてみたり、ご利用者が意見を言いやすいような声かけの仕方や、場の雰囲気作りへの配慮を検討されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	所長が定期的に市の窓口を訪れ、スプリンクラー設置の件や、情報提供書提出についての質問などを相談すると、市の担当者は丁寧に説明してくださっている。運営推進会議の後に、市の職員より、事故報告の仕方について助言を頂いたり、ご利用者の金銭面での相談にも乗ってくださり、的確なアドバイスのもと、トラブルの解消につながった。市の相談員の受け入れも行ってはいるが、継続的な関わりは充分とはいえないと所長は感じている。	○	市の担当者に相談することで、分からなかったことや知らなかったことが再認識でき、これからも市の窓口を訪問する回数を増やし、担当者との連携を更に図っていききたいと所長は考えている。事業所の考え方や活動内容等についての情報提供を継続的に行っていかれることを期待していききたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年3回発行の“よなわだより”に、行事のときのご利用者の様子や誕生日を迎えられた方の写真、今後の行事の予定、新任職員の紹介等を掲載して、ご家族に配布している。ご家族が面会にお見えになったときに、個別に健康状態をお伝えしたり、代表である院長より、検査結果の報告がされている。金銭については、ご家族来所時に出納帳の確認をして頂いている。ご家族に安心して頂ける様、こまめに報告するよう心掛けられている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場で参加者より提案があり、声のポストが設置された。声のポストで頂いたご意見は、運営推進会議で取り上げ、参加者より助言を頂いている。ご家族や会議出席者から頂いた意見や助言は記録に残し、対応策を含めて職員と話し合っている。ご家族来所時やカンファレンス前に、ご家族から率直なご意見を頂けるよう、職員が声かけを行っている。	○	声のポストの活用やご家族来所時に、職員が声かけは行っているが、更に率直なご意見を頂ける様、声かけを行っていききたいと所長は考えている。ご家族との会話が更に増えていくことを期待していききたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	院長、所長は、職員の入れ替わりはなるべく無くしたいと考えている。職員の退職は、ご利用者へのダメージが思ったより大きいことを痛感している。職員から相談があれば、休みの希望に応じたり、勤務時間等の配慮をしたりしている。個人面談を行い、悩みを聴取したり、食事会等、職員親睦の場を設けるなどの取り組みも行われている。ご利用者にダメージを与えないよう、新しい職員の紹介に時間をかけたり、退職した職員に案内状を送り、退職後も、ホームの行事に参加してもらっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者である院長は、職員の育成についての必要性を認識し、随時外部研修の案内を職員にしている。事業所全体としての研修計画はあるが、職員毎の育成計画はまだ作成されていない。現場で働きながら介護技術を習得し、経験を積んでいくことが大切と考え、院長がミーティングの時間に疾患等についての研修を行っている。グループホーム協議会の研修参加時は、交通費や食事代の補助も行われている。	○	職員の経験年数に応じて、認知症介護実践者研修受講が予定されている。運営者は、職員のレベルに応じて、実技研修等も今後行っていききたいと考えている。各職員の立場・経験・習熟度等に応じて、段階的に力をつけていけるよう、職員と共に、目標の設定を検討され、個別の育成計画を作成していかれることを期待していききたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	院長は、同業者との交流・連携の必要性を認識し、グループホーム連絡協議会に参加し、事例や事業所の課題の合同検討など行っている。ボーリング大会など職員親睦会の合同開催も行われている。所長はグループホーム協議会の研修委員のメンバーであるため、会議等にも出席している。相互訪問等の活動はまだ行われていない。	○	他事業所との相互訪問などを通して、同業者と交流する機会が更に増え、共にサービスの質を向上していかれることを期待していききたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームの見学や体験入居をして頂いたり、入居について納得されていない方には、ホームに來所して頂き、職員が心から歓迎していることをお伝えして安心して頂いている。母体の医院に入院中で入居待機中の方には、お茶の時間にホームに來て頂き、少しづつ馴染んで頂けるような対応も行っている。併設のデイサービスを利用後入居された方には、デイサービスの職員がホームに顔を見せに來たり、デイサービスのレクリエーションに参加してもらったりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	旬の食材のおいしい食べ方や調理の仕方、長崎の行事にまつわる祝い事、種々のしきたり、神棚の奉り方などをご利用者から教えて頂いている。表情の乏しかったご利用者の笑顔が多く見られるようになった時や、感謝の言葉を頂いたとき、共に支え合いながら一緒に過ごしていると感じている。また、家族面会時、お孫さんが出産して、赤ちゃんを連れて來て下さったときなど、ご利用者と共に喜びを分かち合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームで“どのように暮らしていきたいか”をご本人から意向を得られない場合、ご利用者の行動・表情から思いを汲み取るようにしているが、まだ把握できていない方がいる。ご利用者と世間話をしながら希望や意向を伺ったり、ご家族や入居前の担当ケアマネや病院のナースから情報を頂いている。自分で食事を摂りたいと希望された方に、諦めずに取り組んだ結果、自ら口に運ばれる様になり、介助していた時よりも召し上がられるようになるなど、本人の思いを把握し、支援するよう努めている。	○	「家庭的な雰囲気の中で、ゆっくりご本人のお話を聞いてさしあげたい」という職員の希望のもと、現在、勤務体制の見直しを行っている。ご利用者が、サービスを利用しながら、どのように暮らしていきたいかを望んでおられるか、明確に意向を表明して頂いていないご利用者に対し、今後も諦めずに意向の把握に向けて取り組んでいかれることを期待していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	再検討を繰り返して作られた、独自のアセスメントシートをもとに、情報収集し、ご利用者主体の介護計画を作成している。ご利用者1人ひとりの状況・思い・生活習慣・好み等を踏まえた「その人らしく暮らし続ける」ための、個別・具体的な課題・目標が記載されている。“地域で暮らす”という視点が盛り込まれていない計画やご家族・ご利用者の意見を反映できていないものもあり、話し合いの必要性を感じている。また、サービスの具体的な内容が細かには記載されていないものも一部見られる。	○	ご家族・ご利用者の意見を頂ける様な取り組みの検討と共に、全職員のケアの方法・留意点を統一するためにも、現在行っているケアの「個別介護手順書」等を作成していかれることも、検討してみたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとのモニタリングで、見直しについて検討している。状態変化がある時には、設定した時期の前でも見直しが行われている。ご家族來所時には、必ず意見・要望を伺い、計画に反映すると共に、現状に即した新たな計画を作成している。全利用者について、月に1回程度の検討は行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制の充実と共に、院長による週1回の回診や、家族に代わっての外出支援や外泊の支援など、その時々要望に応じて、柔軟に対応している。ご利用者の状態に変化が見られる場合、同ビルの最上階に院長のご自宅があることから、すぐに駆けつけてくださり迅速な対応がなされている。圧迫骨折により心身ともに低下されたご利用者に、食事形態を変えたり、医療的処置が随時行われ、ホームでの生活が継続できるような取り組みが行われた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族・ご利用者に希望を伺っているが、入居以前から、院長が主治医というご利用者が多い。ご家族の希望により専門医を受診されている方もおられる。事業所の協力医療機関については、職員が通院介助をしているが、個別のかかりつけ医については、ご家族に依頼している。受診結果について、変化があった場合は速やかにご家族に報告している。ご家族が通院介助された場合の受診結果については、ご家族より報告を受けているが、充分把握出来ているとは言えない。	○	リハビリ目的で、他の医療機関に通院されているご利用者について、ご家族が通院介助されているが、リハビリの状況など充分把握できていない。日常生活上、注意しないといけないことや、ホームで出来るリハビリなど、情報を収集することで、今後のリハビリの効果が上がると考えられる。通院先の担当者と連絡をとり、リハビリの状況や受診結果等を把握していかれることを期待したい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に重度化した場合は、随時、代表である院長に、ご利用者のバイタル等を報告し、緊急時には常に院長またはよなわ医院看護師と連絡がとれる体制にあることを説明している。急変時においても、ご利用者が出来る限り住み慣れたホームで過ごせるよう看護職員を配置し、24時間の緊急連絡体制を確保しているが、やむを得ずホームでの対応が困難となった場合は、よなわ医院や他医療機関に入院して頂くことを、ご利用者・ご家族に説明し、同意を頂いている。重度化した場合の対応の仕方について、ホームの職員間での十分な話し合いは出来ていない。	○	現在、よなわ医院の看護師にいつでも連絡が取れ、すぐに対応していただける体制にあることから、ホームの職員間での十分な話し合いされていない。重度化した場合の対応方法について、看護職員だけでなく、全ての職員で話し合いを行い、意志の統一を図っていききたいと、所長は考えている。今後の取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、ご利用者のプライバシーに配慮し、トイレ誘導時「洗面所に行きませんか」と小声で声かけしたり、居室入室時は、必ずノックするようにしている。申し送りはご利用者に聞こえないよう、別室で行っている。職員の採用時に、所長が個人情報に関する話を行い、秘密保持誓約書にサインを頂いている。ご家族面会時に、廊下で立ち話をするのも個人情報の視点からふさわしくないのではないかと、職員間で話し合いを行い、周囲に他のご利用者がおられる場では話さないように配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の日課にとらわれず、決して無理強いをせずに、ご利用者の希望にそって、臨機応変に対応している。「どのように過ごしたい」と希望を表して頂けないご利用者にも、こまめに声かけを行い、気分転換に車椅子で散歩したり、音楽を聴いていただくなどの対応をしている。時間をかけて、ご利用者の表情から、関心を示されるものがないか観察しているが、ゆっくりと時間をかけて待つことができない場合も時には見られる。	○	コミュニケーションが取りにくい方の場合、その人が望む暮らしが充分支援出来ていないときがあるのではないかと、職員は感じている。今後も諦めずに、ゆっくり時間をかけて取り組んでいきたいと考えている。今後の更なる取り組みに期待していききたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日ではないが、ご利用者に食事の献立を考えて頂いたり、一緒に食材の買出しに行ったりしている。玉ねぎ・にんじんの皮むきやゴマすり等、調理の下ごしらえや配膳・下膳、食器洗いなど手伝って頂いている。旬の食材や郷土食を採り入れたり、時には、レストランや和食のお店で外食することもある。医院の駐車場で外気に触れながらお弁当を食べたり、花火や花見見物の時には、大きなお皿に盛ってオードブル感覚で頂くなどの工夫も行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は9時半から16時半で、おおむね週3回の利用となっているが、ご利用者1人ひとりの要望や状況に合わせて入浴日の変更も行われている。ご利用者の希望に合わせて、湯温を調節したり、シャンプー等好みのものを使用している。季節に合わせて、菖蒲湯等も行われている。週3回の「入浴が多い」と入れない方や入浴を拒否されたときは、足浴や清拭に切り替えたり、座っているだけで全身洗えるミストシャワーを利用していただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理・洗濯物たたみ・新聞折等、ご利用者1人ひとりの得意とすることを役割として行ってもらっている。好きな歌を歌ったり、歌番組を見たり、小物作りをするなど楽しみごとの支援も行われている。全ご利用者が毎日の生活の中で、楽しみごとを持って過ごせるよう支援しているが、意欲がなく充分楽しんで頂いているとは言えないご利用者もおられる。	○	意欲のないご利用者に、どういうことに関心を示されるか、いろいろな取り組みがされている状況である。ご家族からも意見を頂きながら、今後も諦めずに取り組みしていかなれることを期待していきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事として、季節ごとのお花見など計画されているが、外出を好まれないご利用者が多く、以前に比べ外出の機会が減っている。薬を貰いに行くときに、近所の散歩を兼ねて遠回りしたり、お弁当にして医院の駐車場で外気に触れながら食事するなどの取り組みがされている。サービス開始前から習慣とされていた外出場所の把握はできているが、ホーム内で過ごす事を好まれ、ご利用者の外出への意欲が低下していることで、継続した外出の支援はできていない。	○	加齢と共に外出の意欲も低下し、ホームで過ごす時間が多くなったことも影響して、下肢の筋力低下が進み、車椅子を使用するご利用者が多くなっている。適度な運動量の確保と気分転換も兼ねた散歩など、外気に触れる機会を少しずつでも増やしていけるような取り組みに期待していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠しているが、日中は職員が見守りしながらお互い声を掛け合うなど配慮している。念のため、玄関の出入りがわかるように、玄関に鈴をつけ、医院やデイサービスの職員にも、協力依頼を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、火災を想定した避難訓練が行われており、ご利用者にも参加して頂いている。同ビルの6階に院長と所長宅があり、5階のマンションに居られる方にも、災害時の協力依頼を行っている。職員宅には、自動で通報される装置がホームに設置されている。災害発生時に備えて、飲料水、非常食、ラジオ、電池等の準備もされている。運営推進会議において、消防設備の説明や避難訓練の報告を行い、初期消火の重要性や火災を起こさない意識が大切というご意見も頂いている。	○	日中に火災を想定した訓練が行われているが、夜間は職員の数も少ないことから、夜間を想定した訓練も必要と思われることより、検討されてはいかかであろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刺身が苦手なご利用者には、煮付けにしたり、卵豆腐をごま豆腐に代えたり、牛乳を別の飲み物に変えるなど、ご利用者に合わせた支援が行われている。母体である医院の栄養士に、ホームで提供した食事を定期的にチェックしてもらっている。食事制限が必要なご利用者のカロリーや塩分等について、代表である院長から助言を得ている。ご利用者ごとの、食事量や飲水量は把握・記録されており、食事が進まないときは、環境を変えて、お弁当にして、戸外で食べるなどの工夫もされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンやよしずを利用し日射しを調整すると共に、音の大きさにも配慮がされている。リビングには、落ち着いた色の家具が配置されている。安全面に配慮して、共用空間に物を置きすぎない様な配慮もされている。換気も定期的に行われ、天気の良い日は窓を開け風が通るようにしている。季節に合わせた飾り付けや、職員が自宅からお花を持ってきては飾られており、ホームにお見えになる方々からも、「お花がきれいですね」と嬉しい声が聞かれている。	○	椅子に座っている時間が長く、足がむくみやすいご利用者もおられる。廊下を使った歩行訓練の途中で足を延ばして休憩できるよう、現在ある畳のスペースを、有効に活用したいと考えている。今後の取り組みに期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、ベットとタンスが備え付けられている。入居時に、ご利用者・ご家族と相談して、ご自身が使い慣れた家具を持ち込んで頂くよう話し合いをしている。机・椅子・収納ケース・テレビなど持参して頂いている。各居室にはご家族の写真が飾られたり、入り口には好みの暖簾をかけたたりして、ご利用者が安心して過ごしていただけるような配慮がされている。	○	居室の窓がサッシとなっているため、家庭的な雰囲気を出すためにも、サッシ窓に障子の様なものを取り付けられないかと、所長は考えている。現状に満足することなく、取り組みを続けておられ、今後も、ご利用者の視点で居心地よく過ごせる居室になっていくことを、期待していきたい。